

淀川水系河川整備計画(変更)の事業内容

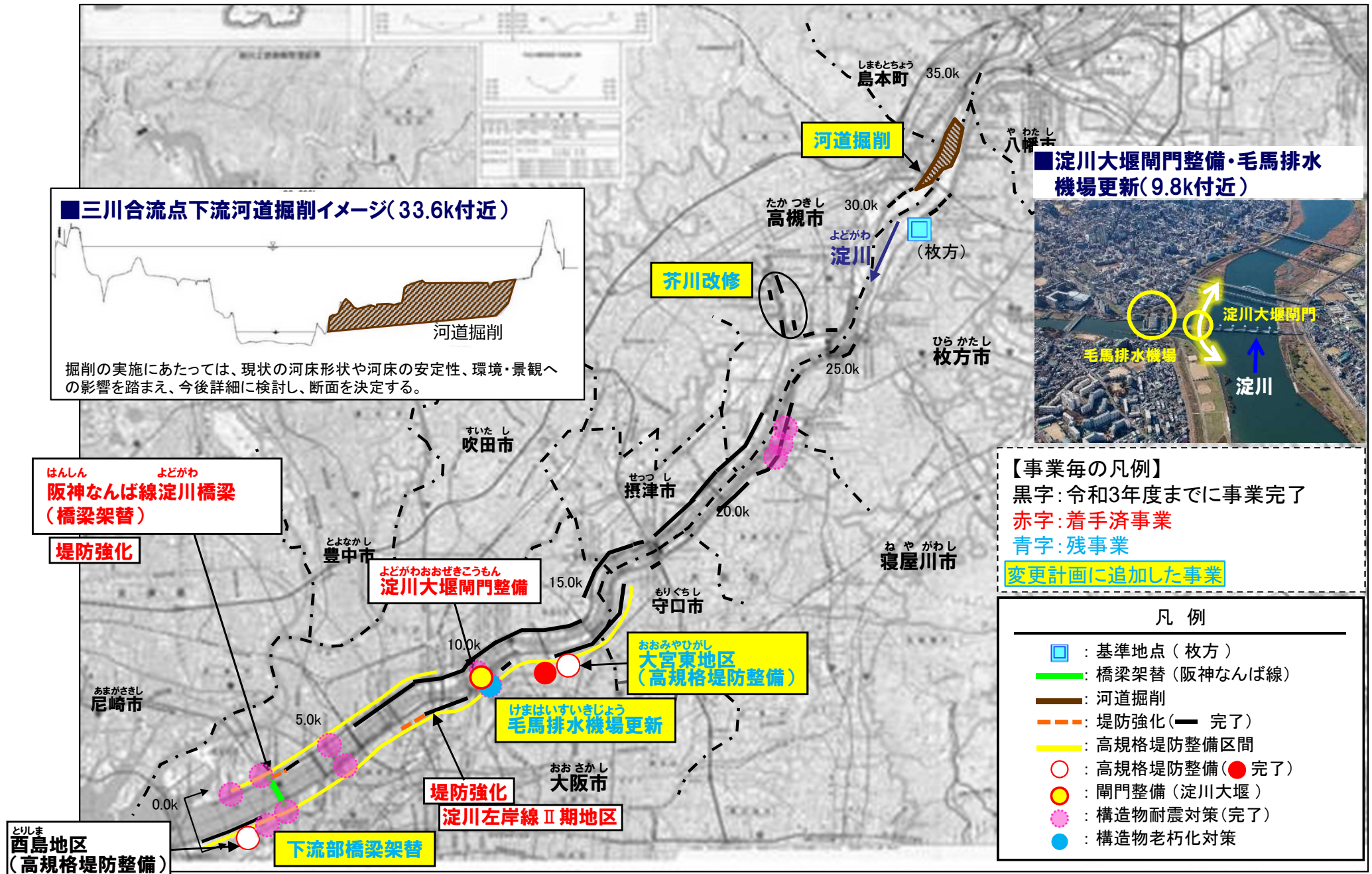
淀川河川事務所

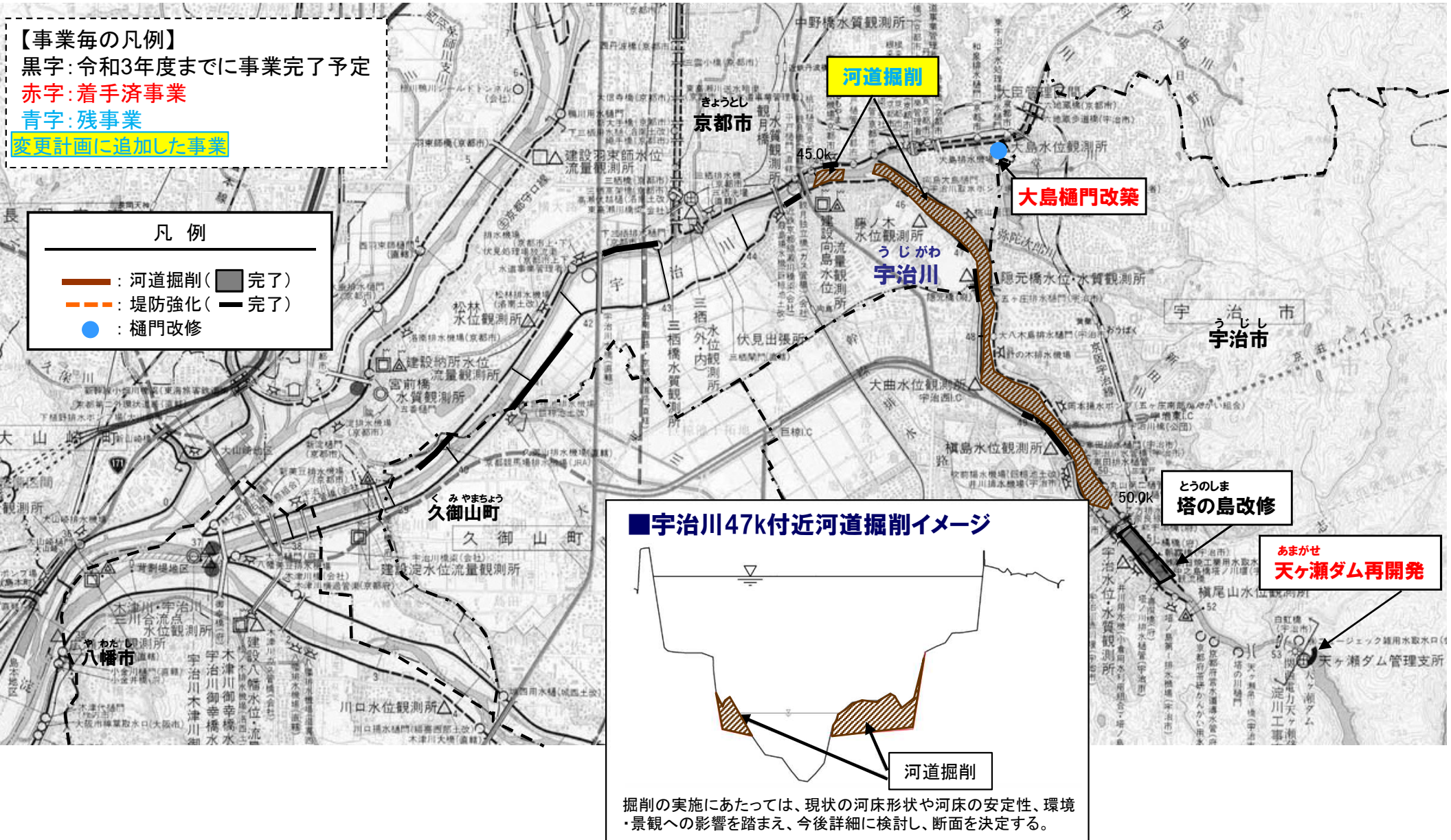
- ・川上ダム完成後、下流への流量増とまらない範囲で、桂川河道掘削を実施。
- ・阪神なんば線架替完了、大戸川ダム完成により可能となる桂川河道掘削を実施。
- ・淀川河道掘削は、上下流バランスを確保した上で桂川河道掘削と並行して実施。
- ・淀川下流橋梁架替完了後、変更計画の目標達成に向けた桂川、木津川の河道掘削を実施。

当初計画の目標達成に必要な事業		
①完成間近の事業	天ヶ瀬ダム再開発	→
	川上ダム	→
② 流量低減対策や下流の流下能力向上対策	阪神なんば線橋梁架替	→
	大戸川ダム(本体工事) ※1	→
③ 中・上流部の流下能力向上対策	淀川河道掘削	→
	桂川河道掘削、嵐山改修	→
	木津川改修(上野遊水地関連含む)	→
	瀬田川改修	→
変更計画の目標達成に必要な事業		
	淀川河道掘削(宇治川を含む)	→
	淀川下流橋梁架替	→ 調査検討の上、実施
	桂川河道掘削	→
	木津川下流河道掘削	→

※1大戸川ダムの建設事業の検証に係る検討において、「本体工事までの調査・設計期間に4年、本体工事の施工期間に8年を要する」と想定。

※2今後の調査・検討などにより工程は変更となる可能性がある。





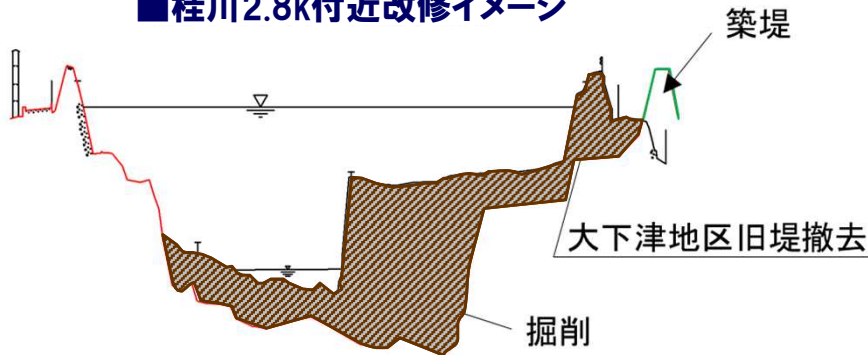
■桂川18k付近 嵐山地区可動式止水壁



■桂川14k付近(5号井堰)



■桂川2.8k付近改修イメージ



掘削の実施にあたっては、現状の河床形状や河床の安定性、環境・景観への影響を踏まえ、今後詳細に検討し、断面を決定する。

凡例

- : 河道掘削 (完了)
- : 堰撤去・改築 (完了)
- : 引堤
- : 緊急用河川敷道路
- : 堤防強化 (完了)

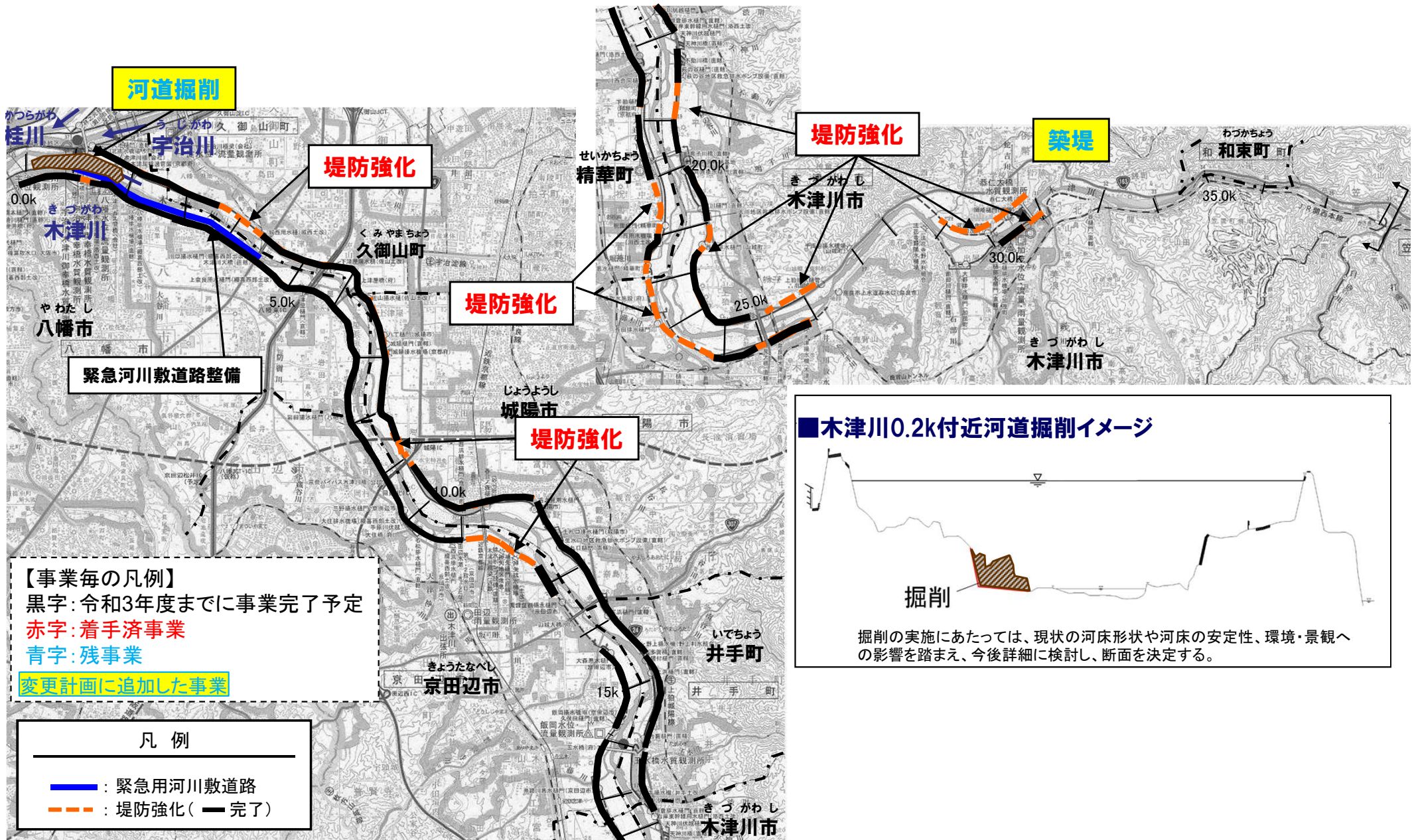
【事業毎の凡例】

黒字: 令和3年度までに事業完了予定

赤字: 着手済事業

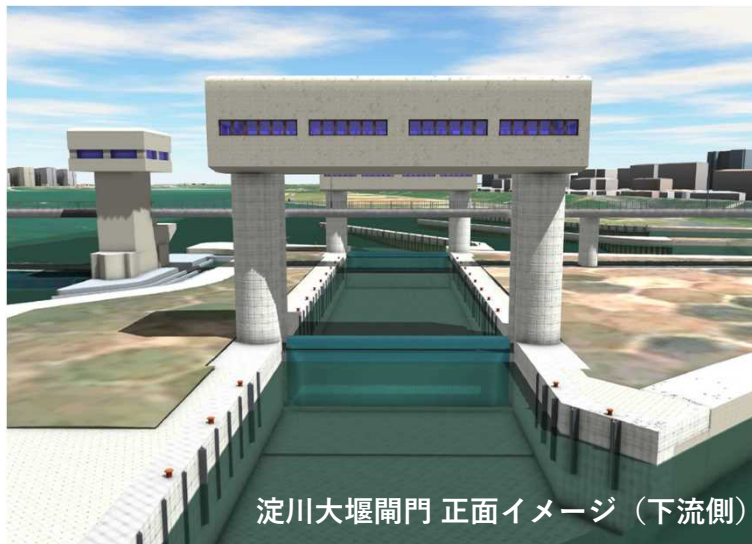
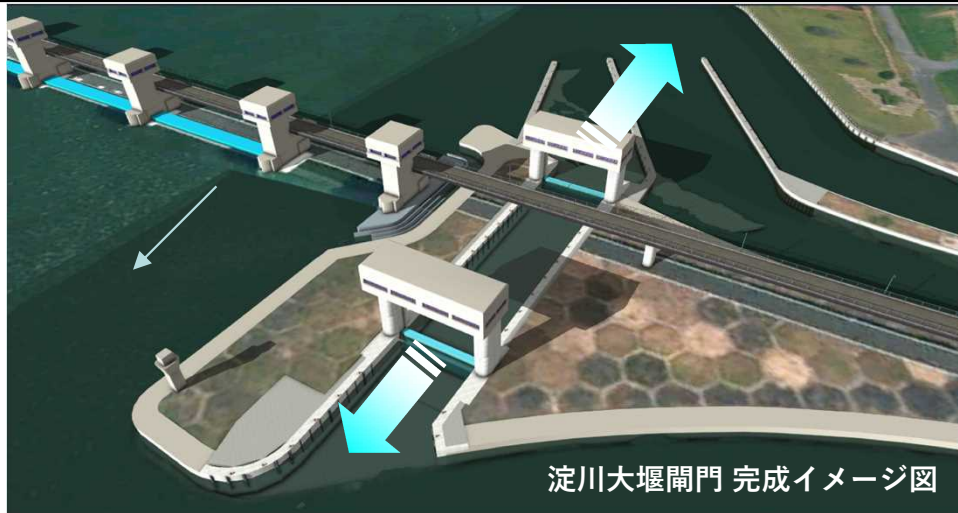
青字: 残事業

変更計画に追加した事業



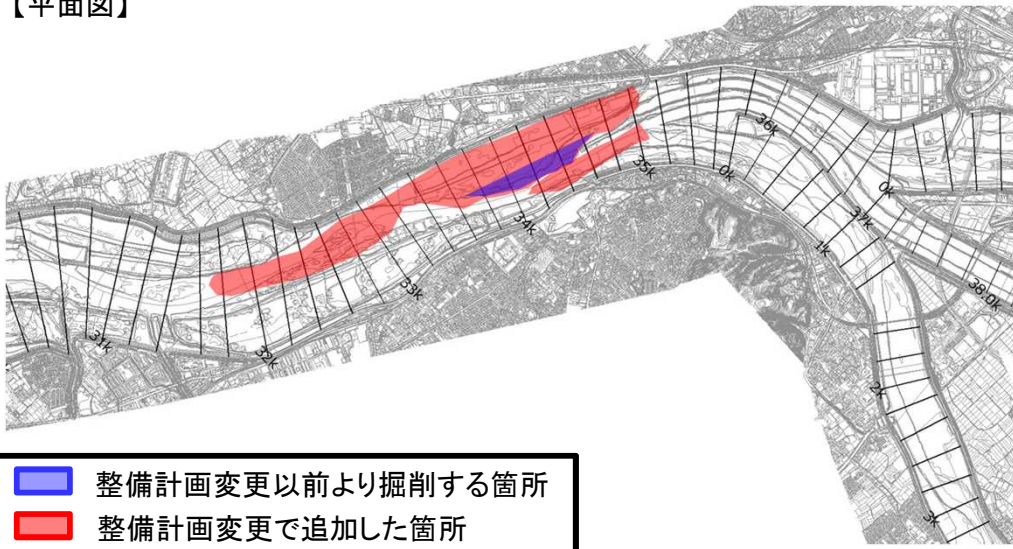
淀川河川事務所の事業内容(淀川大堰閘門)

- ・ 淀川大堰閘門の整備により、地震などの災害時の復旧活動への活用や、河川工事の資材運搬を舟運を用いて実施することが可能。
- ・ また、淀川大堰閘門整備による舟運の拡張に伴い、淀川沿川の賑わい創出に寄与。
- ・ 令和3年度に事業化、令和7年5月開催の関西・大阪万博までの完成を目指し整備中。



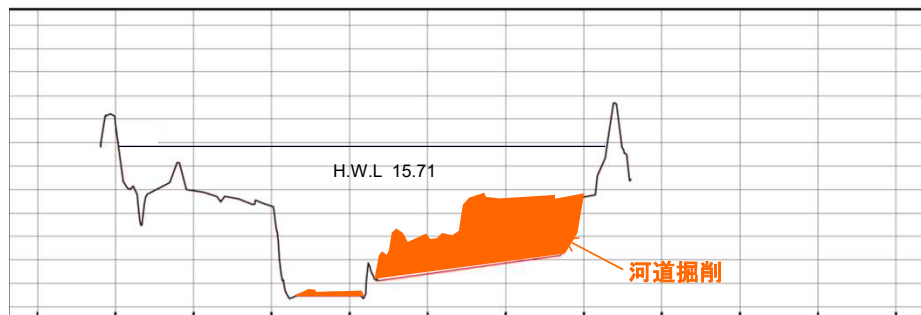
- ・雨の降り方によっては3河川（宇治川、木津川、桂川）が同時にピーク流量を迎える事もあり、その際には三川合流点の流れにくくなり、背水の影響を大きく受けることから、各支川の水位上昇を助長。
- ・平成25年洪水時にも三川合流点の水位が高い状況となり、宇治川ではほぼ全川にわたり計画高水位を超過し、木津川、宇治川沿川において内水被害が発生。
- ・三川合流点下流を掘削することにより、合流点の水位が低下し、各支川の水位低下にも寄与。

【平面図】

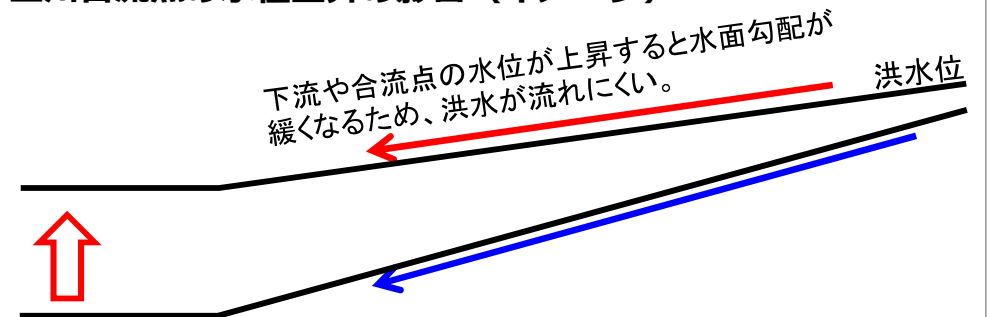


【断面図】

淀川33.6k付近河道掘削イメージ



○三川合流点の水位上昇の影響（イメージ）

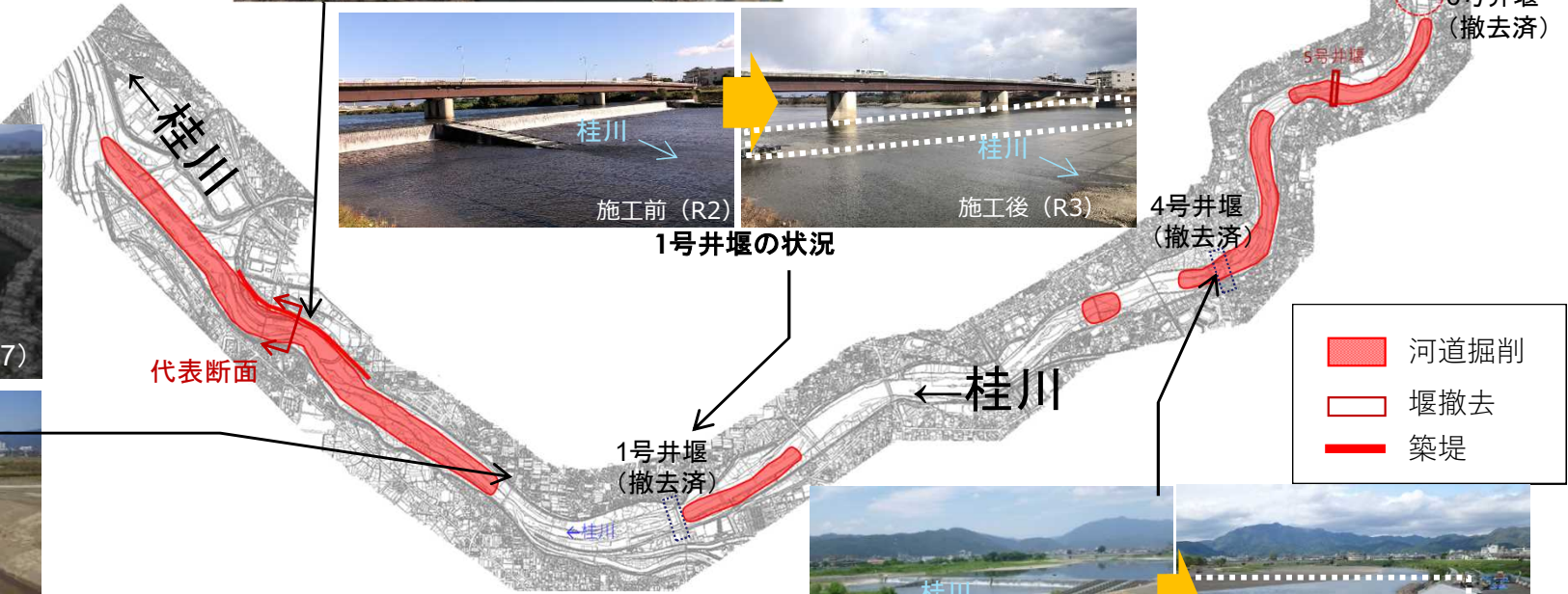


淀川河川事務所の事業内容(桂川改修(河道掘削等))

- ・ 目標洪水の見直しに伴い、三川合流部から上流にわたって更なる河道掘削等を追加。
- ・ 現在実施中の大下津地区引堤事業は旧堤撤去を残すところであり、引き続き事業を推進し早期完成を図る。



羽束師橋下流の状況

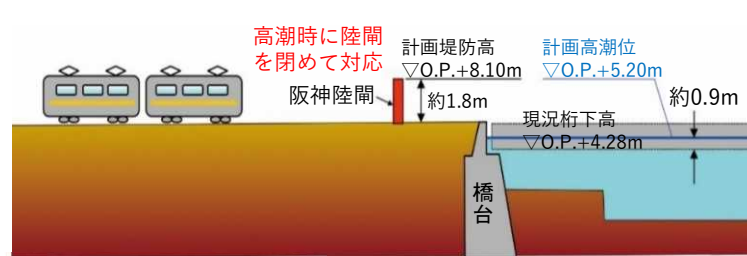
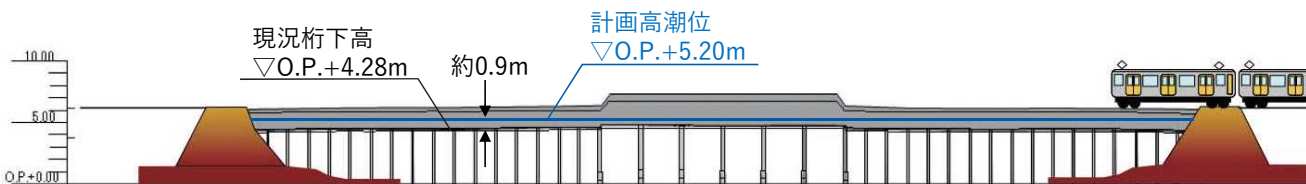
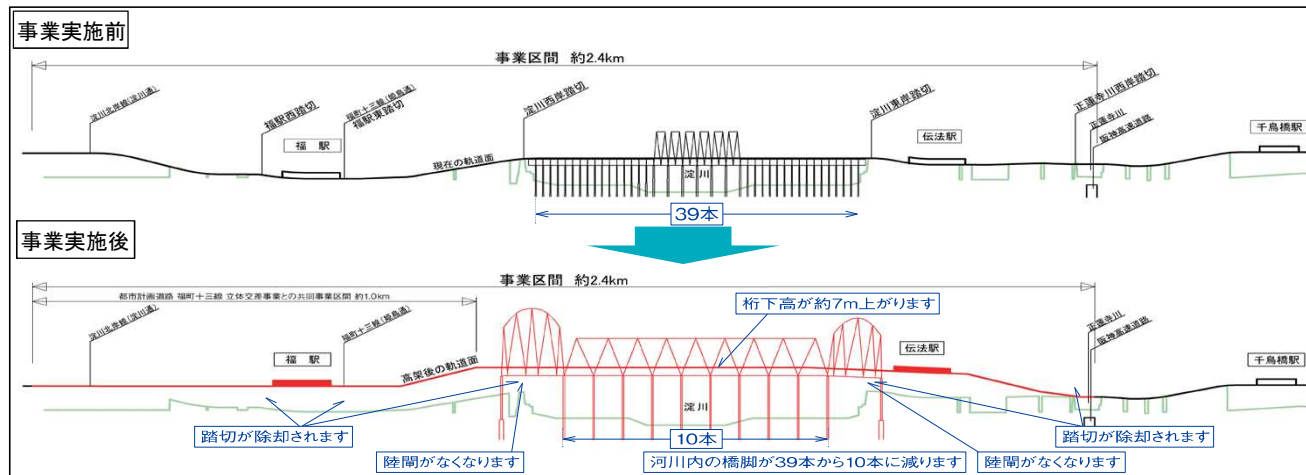


1号井堰の状況



4号井堰の状況

- ・現在の橋梁は、橋脚39本と多く、桁下高が計画高潮位を下回っており、洪水の流れを阻害しているため、橋脚を減らすとともに、嵩上げする。
- ・これにより、淀川枚方地点の流下能力を10,500m³/sから10,700m³/sに増大させる。



阪神なんば線淀川橋梁架替状況 (令和3年8月)



陸閉鎖完了
台風21号(H30年)

旅客船航行時

琵琶湖河川事務所

■瀬田川

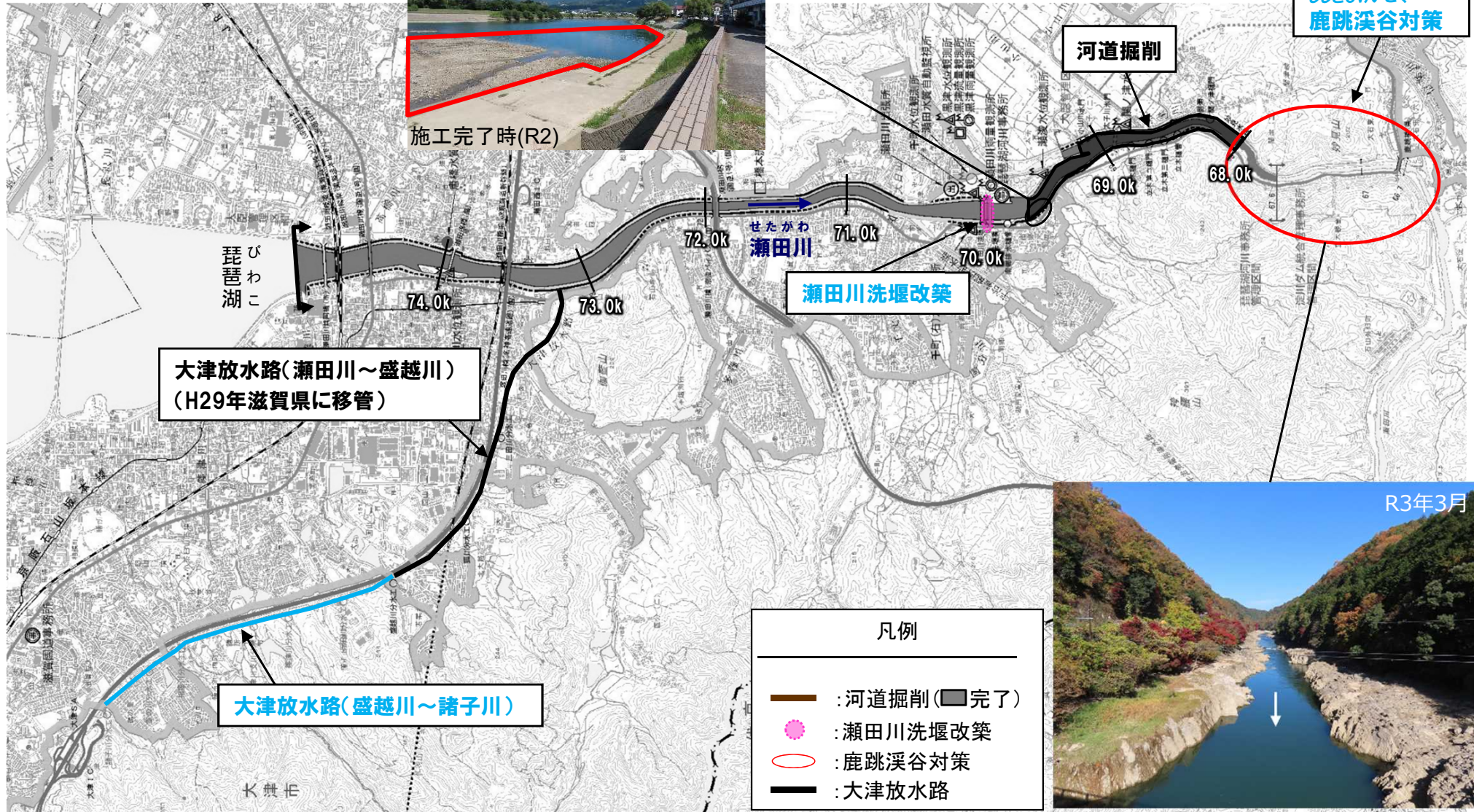
【事業毎の凡例】

黒字: 令和3年度までに事業完了予定
 青字: 残事業

■瀬田川69.5k付近(河道掘削)



施工完了時(R2)



ししとびけいこく
 鹿跳溪谷対策

河道掘削

瀬田川洗堰改築

大津放水路(瀬田川～盛越川)
 (H29年滋賀県に移管)

大津放水路(盛越川～諸子川)

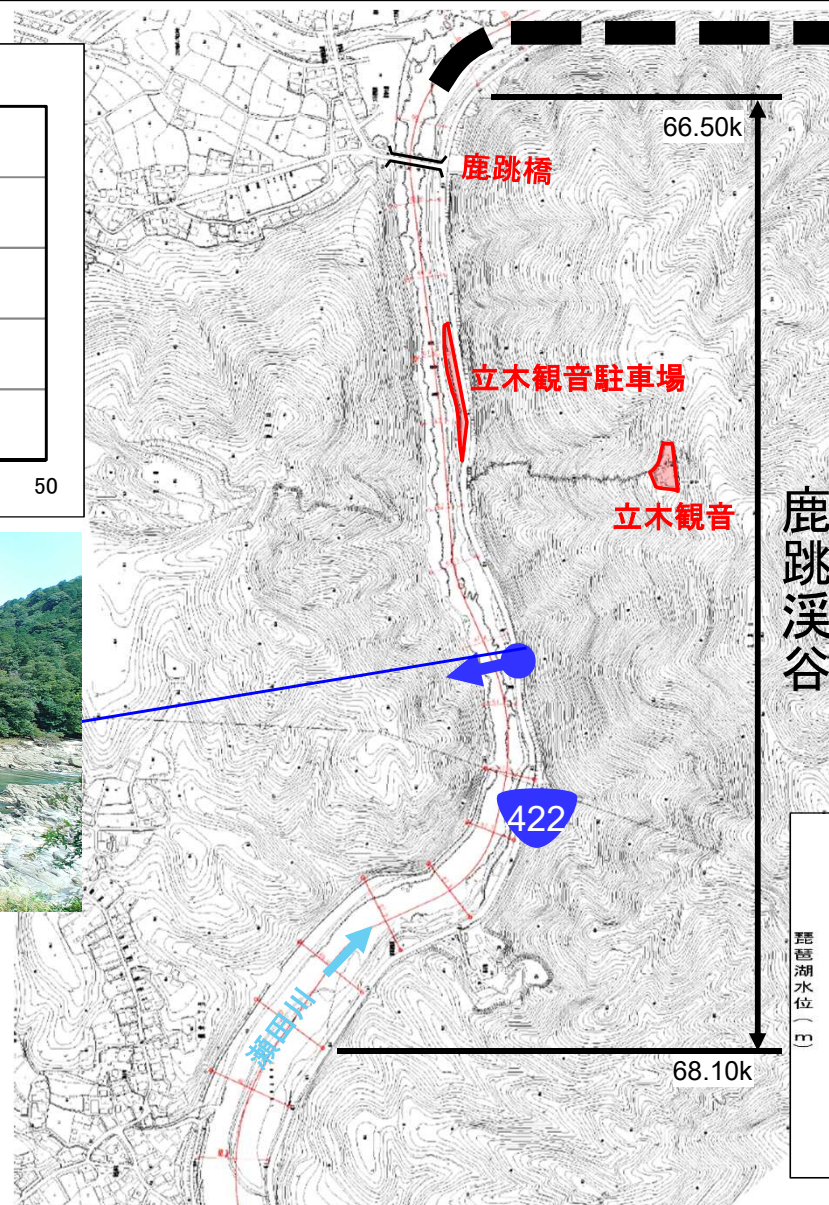
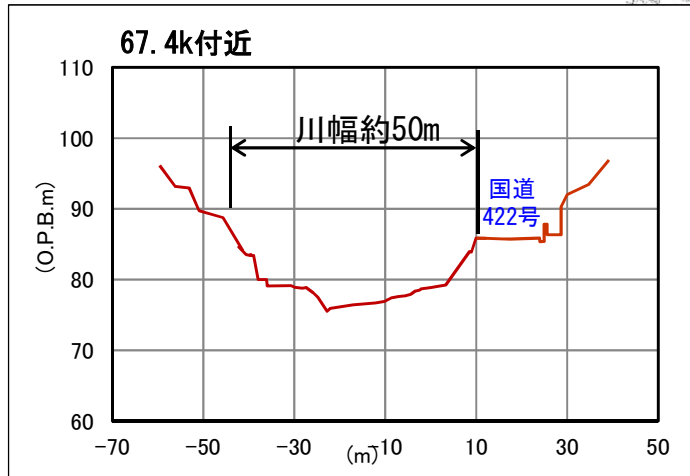
- 凡例
- (thick black line) : 河道掘削 (完了)
 - (pink) : 瀬田川洗堰改築
 - (red) : 鹿跳溪谷対策
 - (thick black line) : 大津放水路



R3年3月

鹿跳溪谷

- 宇治川の1,500m³/s河道が実現し、鹿跳溪谷を改修することで琵琶湖水位の早期低減が可能。
- 学識経験者の助言を得て、景観、自然環境の保全や親水性の確保などの観点や早期効果発現を重視した河川整備について検討して実施する。

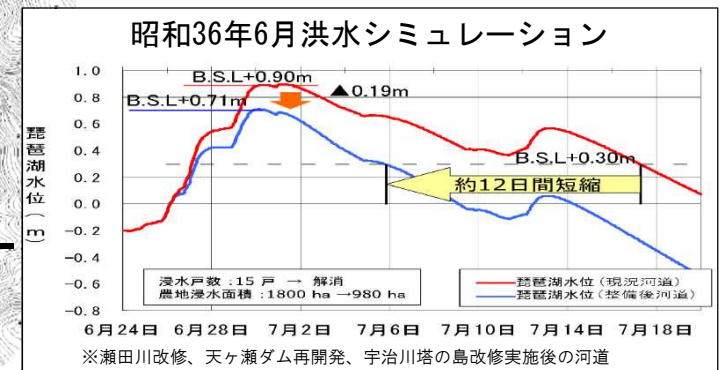


15km下流付近の状況

宇治川1500m³/s河道 (H30年度完成)



宇治川塔の島地区

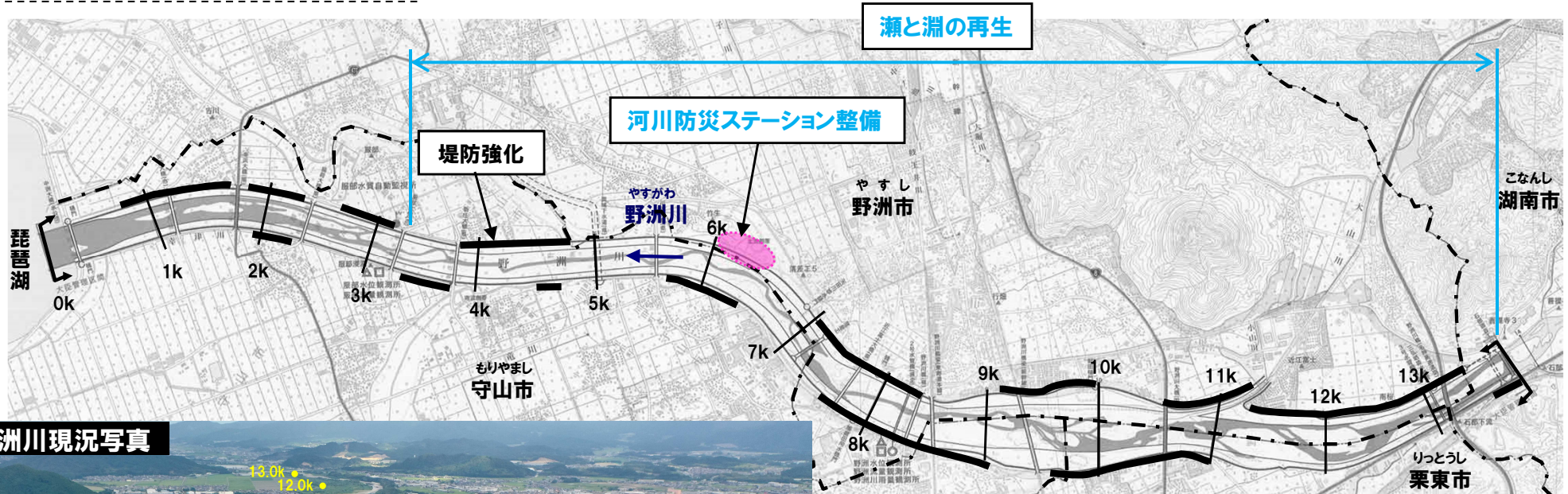


※瀬田川改修、天ヶ瀬ダム再開発、宇治川塔の島改修実施後の河道

■野洲川




【事業毎の凡例】

黒字: 令和3年度までに事業完了予定
 青字: 残事業



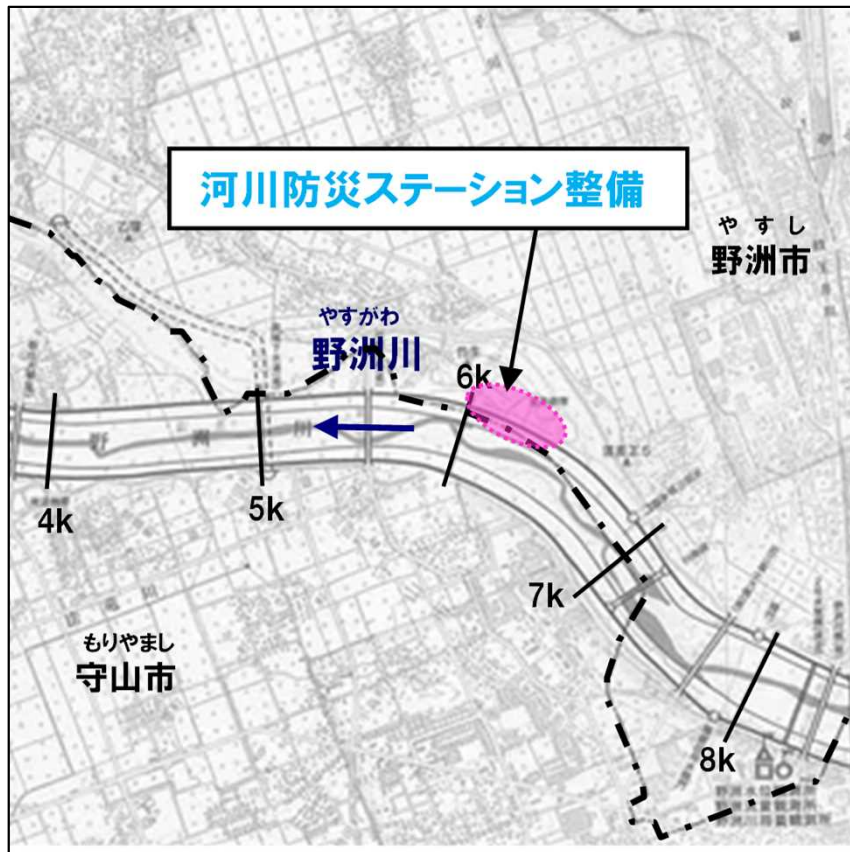
野洲川現況写真



凡例	
	: 河川防災ステーション整備
	: 瀬と淵の再生
	: 堤防強化 (— 完了)

- 水防活動や物資輸送等の拠点となるヘリポートなどを備えた河川防災ステーションを整備する。
- 自治体と連携して河川防災ステーションの整備について検討し、調整・実施する。
- 基盤整備を河川管理者が実施し、水防活動を実施するための水防センター等の施設は自治体等が整備する。

■野洲川 位置図



《河川防災ステーションの活用イメージ》



平時利活用を促進することで、地域の賑わいづくり及び防災に対する理解浸透等を推進

・砂礫河原及び瀬と淵の再生によって、水辺に棲む生物の生息・生育・繁殖に重要な水辺環境の保全・再生を図る。

・野洲川の現状

「河道の単調化」

- ① 澗筋の固定化
- ② 低水路の陸域化、樹林化



・実施状況



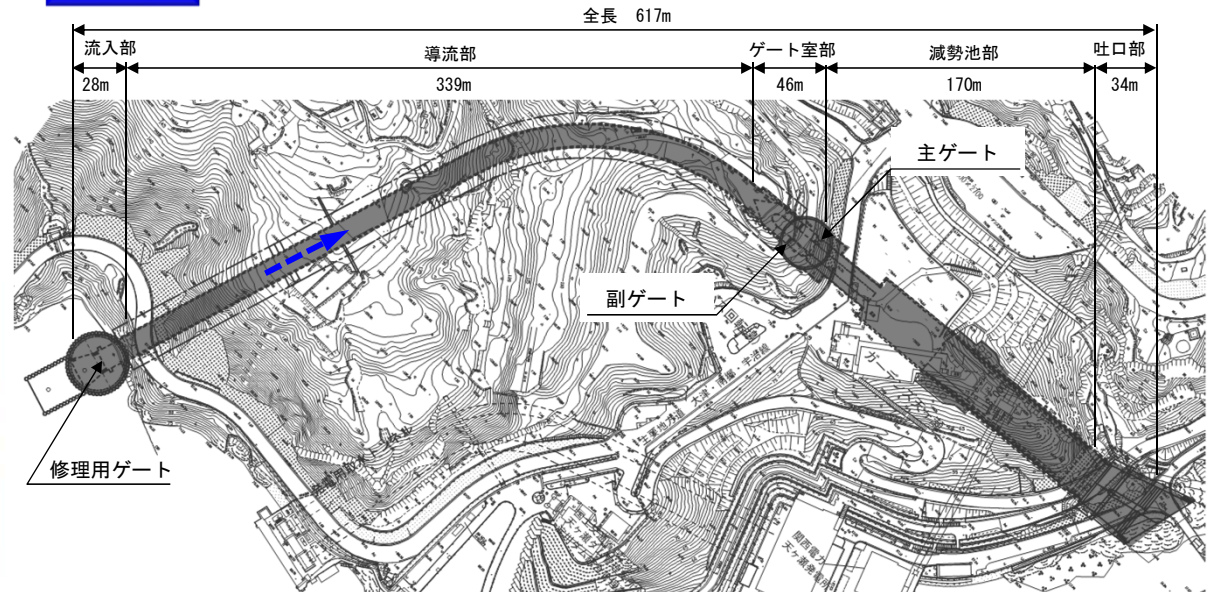
天ヶ瀬ダム再開発事業

- ・洪水調節機能の強化（治水）、京都府の水道用水の確保（利水）、発電能力の増強（利水）を実施する。
- ・トンネル式放流設備（計画放水量 $600 \text{ m}^3/\text{s}$ 、延長 617 m ）を実施する。

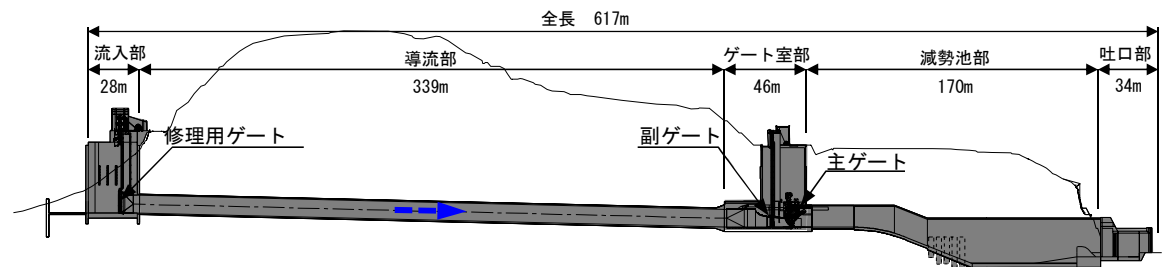
航空写真と完成イメージ



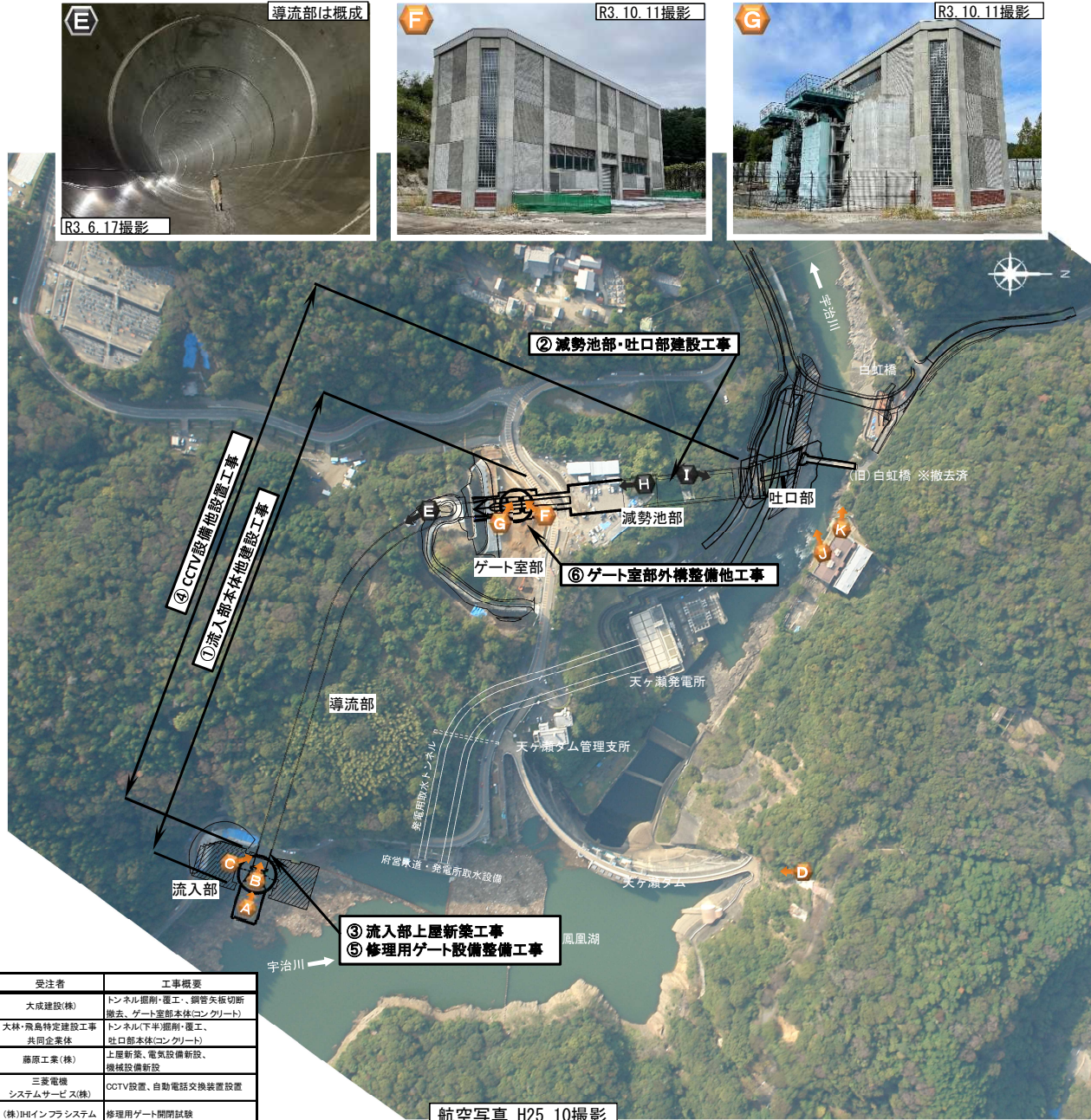
平面図



縦断面図



天ヶ瀬ダム再開発事業 工事位置図

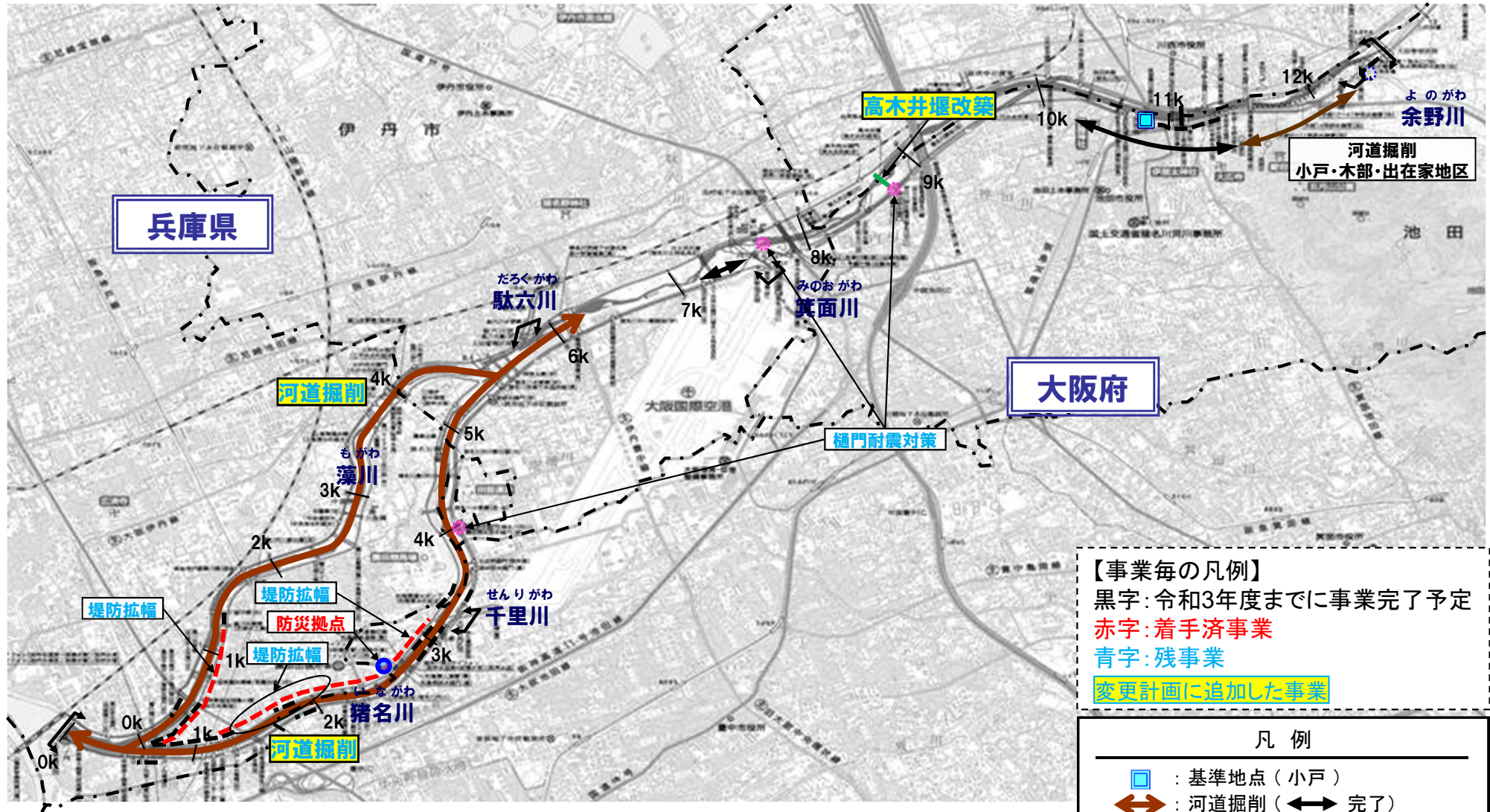


番号	工事名(工事場所)	工期	受注者	工事概要
①	天ヶ瀬ダム再開発流入部本体建設工事 (京都府宇治市檜島町六石山地先)	自) H31.3.18 至) R4.3.31	大成建設(株)	トンネル掘削・掘工・鋼管矢板切断撤去、ゲート室部本体(コンクリート)
②	天ヶ瀬ダム再開発減勢池部他建設工事 (京都府宇治市宇治金井戸地先)	自) H30.9.8 至) R4.3.31	大林・飛鳥特定建設工事 共同企業体	トンネル(下半掘削・掘工、吐口部本体(コンクリート)
③	天ヶ瀬ダム再開発流入部上屋新築工事 (京都府宇治市檜島町六石山地先)	自) R3.1.30 至) R4.3.31	藤原工業(株)	上屋新築、電気設備新設、機械設備新設
④	天ヶ瀬ダム再開発CCTV設備他設置工事 (京都府宇治市宇治金井戸地先)	自) R3.6.19 至) R4.2.15	三菱電機 システムサービス(株)	CCTV設置、自動電話交換装置設置
⑤	天ヶ瀬ダム再開発修理工用ゲート設備整備工事 (京都府宇治市檜島町六石山地先)	自) R3.7.16 至) R3.11.2	(株)Hインフラシステム	修理工用ゲート開閉試験
⑥	天ヶ瀬ダム再開発ゲート室部外構整備他工事 (京都府宇治市檜島町六石山地先)	自) R3.8.12 至) R4.2.15	(株)エイケン	ゲート室部外構整備









凡例 (※ 斜線箇所: 仮設備)
 黒線: 完成 : 地上
 黄線: 施工中 : トンネル内

航空写真 H25. 10撮影

猪名川河川事務所



【事業毎の凡例】
 黒字: 令和3年度までに事業完了予定
 赤字: 着手済事業
 青字: 残事業
 変更計画に追加した事業

凡例	
	: 基準地点 (小戸)
	: 河道掘削 (←完了)
	: 堰改築 (—完了)
	: 堤防強化 (- -完了)
	: 堤防拡幅 (- -完了)
	: 防災拠点
	: 樋門新築
	: 構造物耐震対策

猪名川河川事務所の事業内容(河道掘削)

- 猪名川直轄最上流端の出在家地区の河道掘削が令和3年度末で完了し、戦後最大洪水である昭和35年台風16号洪水を安全に流下させる河道整備が完成。
- 今後は、昭和35年台風16号洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させるため、上下流バランス（銀橋・神崎川）を確保するとともに、下流神崎川の治水安全度を現況よりも低下させない範囲で、猪名川下流域より更なる河道掘削等を順次実施。



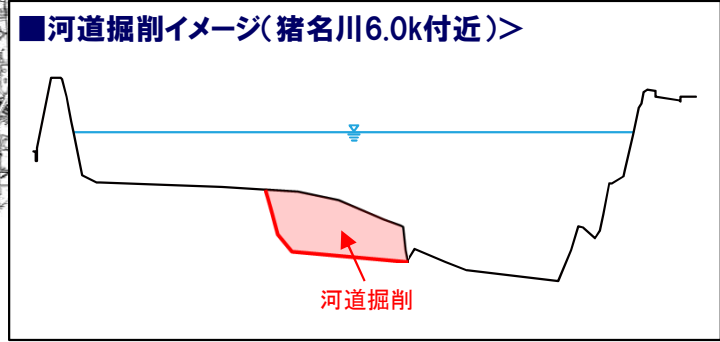
河道掘削 約100万m³

兵庫県

大井井堰改築 4k

藻川橋橋梁補強 2k

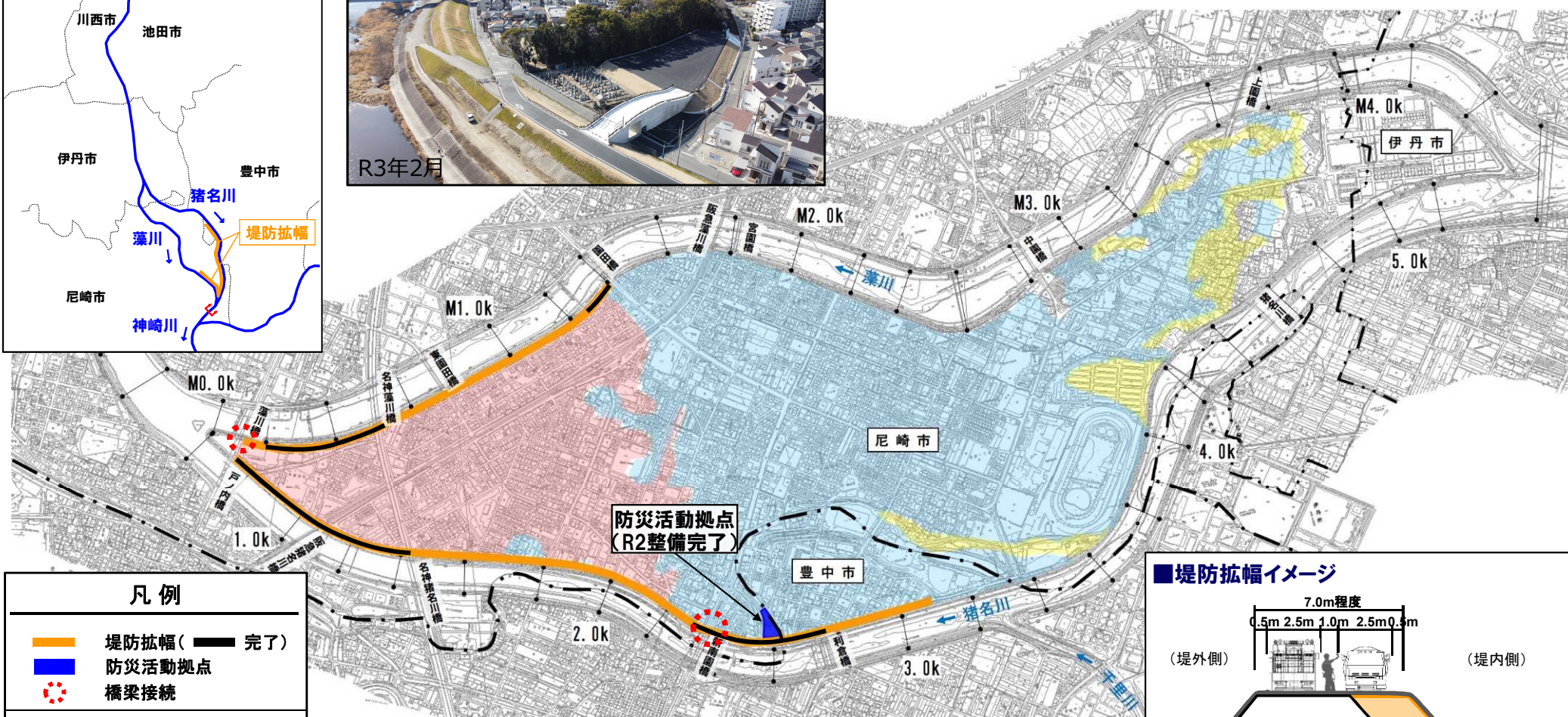
上津島床固撤去 2k



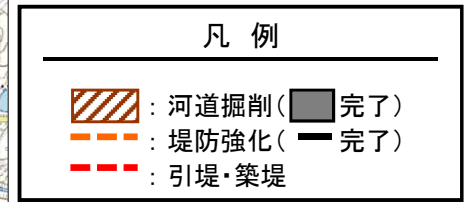
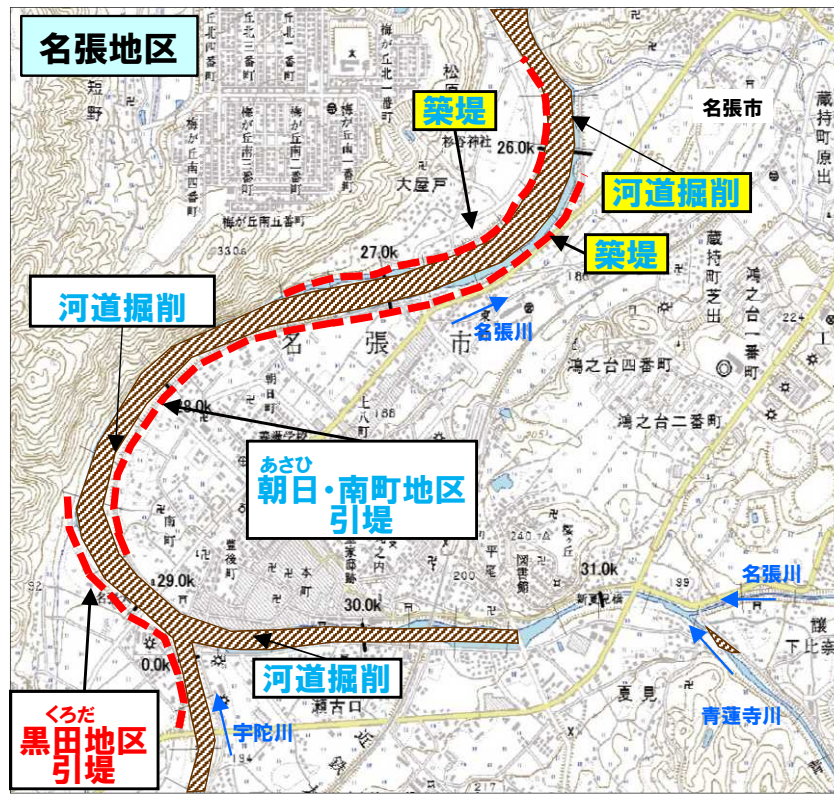
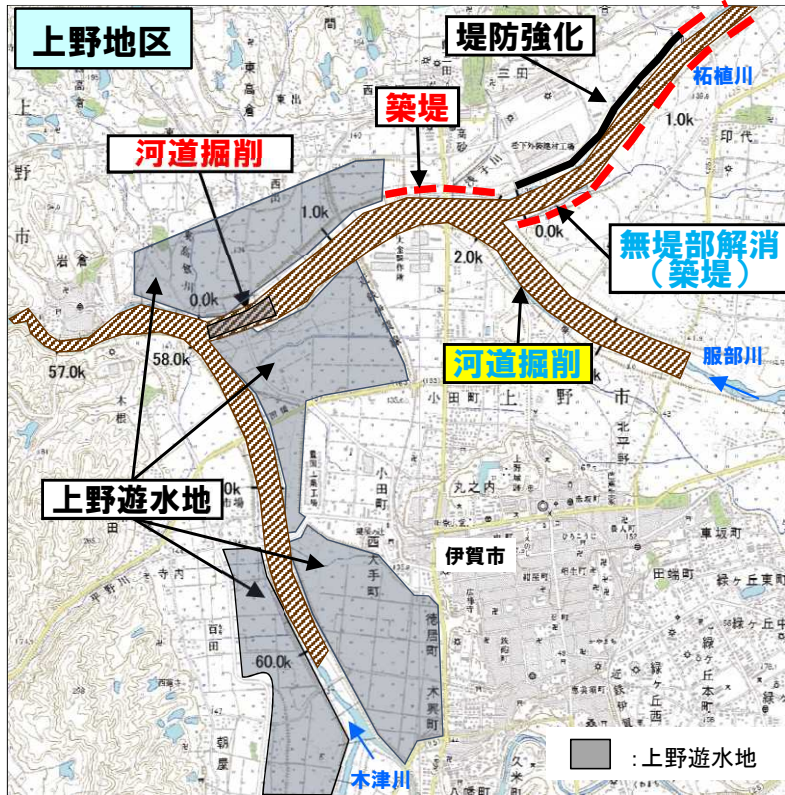
河道掘削等

大阪府

- ・猪名川と藻川に囲まれた島の内地区の水害リスク対策（島の内水害に強いまちづくりプロジェクト事業）である防災活動拠点整備が令和2年度に完成。
- ・今後も引き続き、猪名川と藻川に囲まれる島の内地区下流部において、水害リスクを軽減するための堤防拡幅を順次実施。

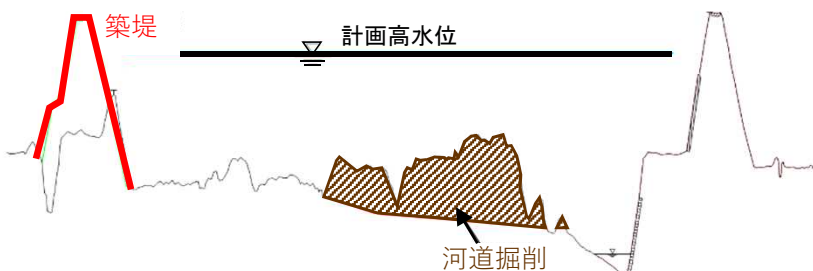


木津川上流河川事務所



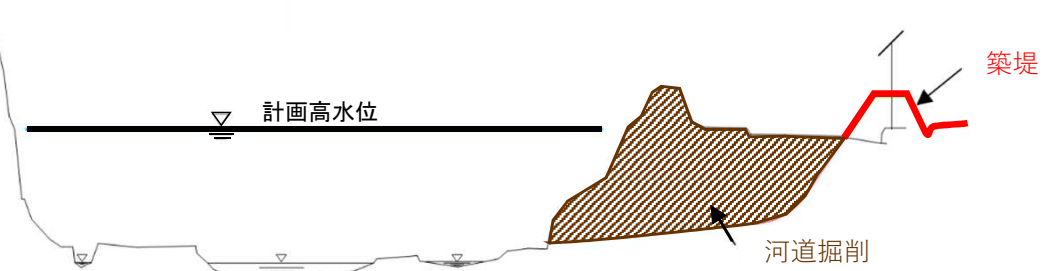
【事業毎の凡例】
 黒字: 令和3年度までに事業完了予定
 赤字: 着手済事業
 青字: 残事業
 変更計画に追加した事業

■ 柘植川0k付近河道掘削・築堤イメージ



掘削の実施にあたっては、現状の河床形状や河床の安定性、環境・景観への影響を踏まえ、今後詳細に検討し、断面を決定する。

■ 名張川28.0k付近掘削・築堤イメージ

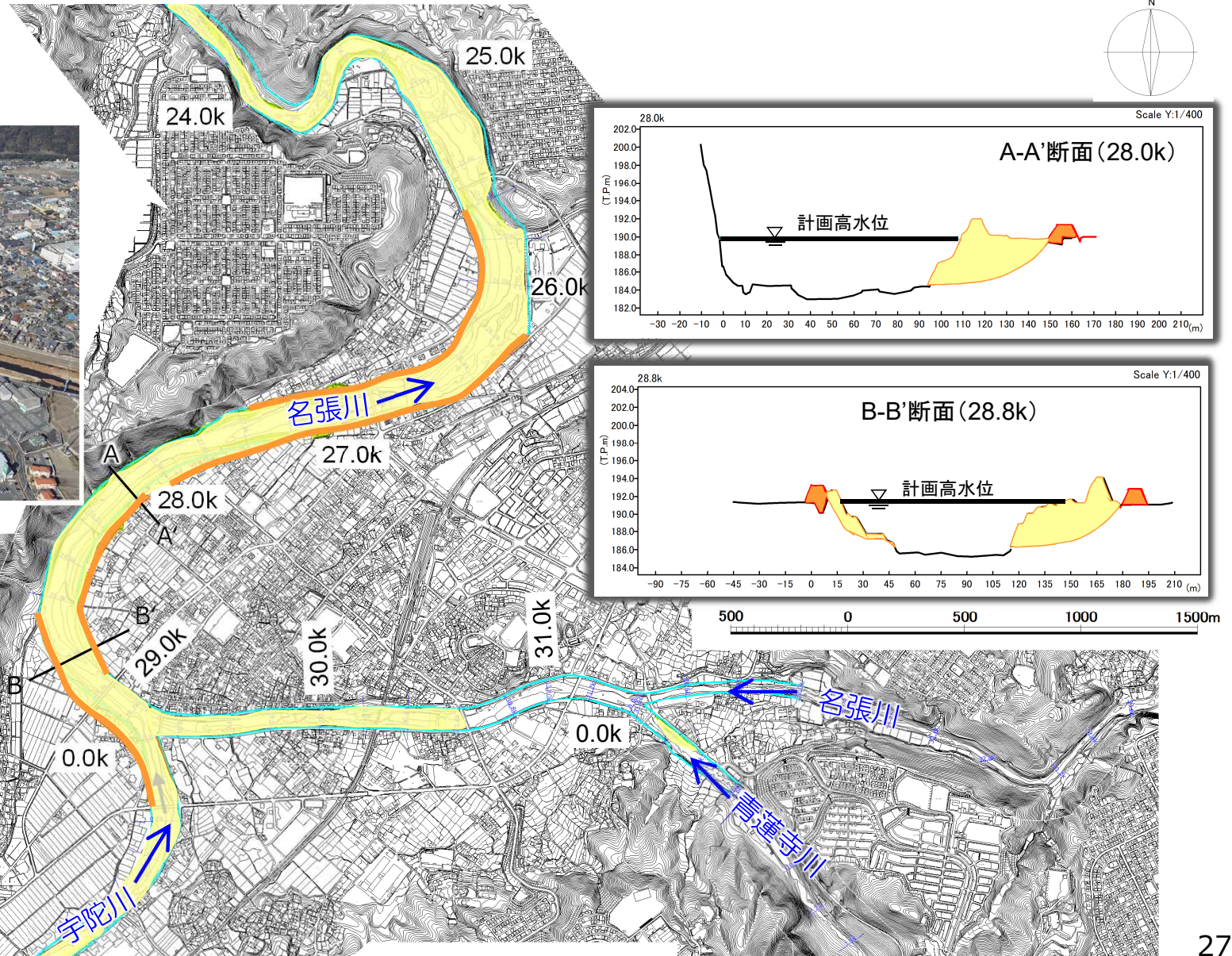
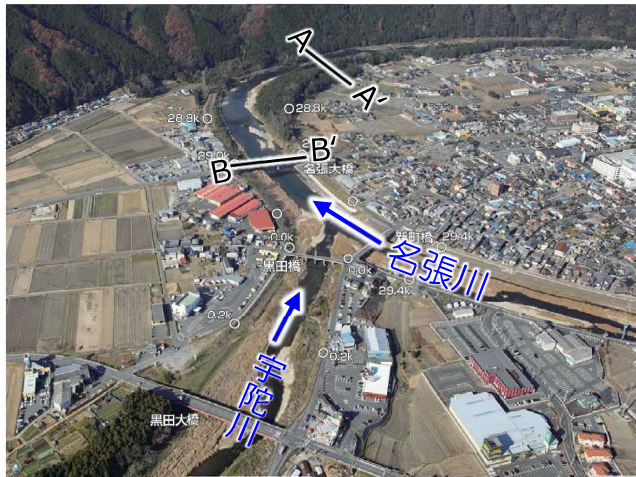


掘削の実施にあたっては、現状の河床形状や河床の安定性、環境・景観への影響を踏まえ、今後詳細に検討し、断面を決定する。

木津川上流河川事務所の事業内容(名張地区)

- ・名張川名張地区では、昭和28年13号の降雨を1.1倍にした洪水を安全に流下させることを目標とする。
- ・名張川黒田地区、南・朝日町地区で引堤を実施し、名張川東町、松原地区で築堤を実施する。
また、名張川、青蓮寺川で河道掘削等を実施していく。

掘削土量 約40万m³
築堤延長 5.6km

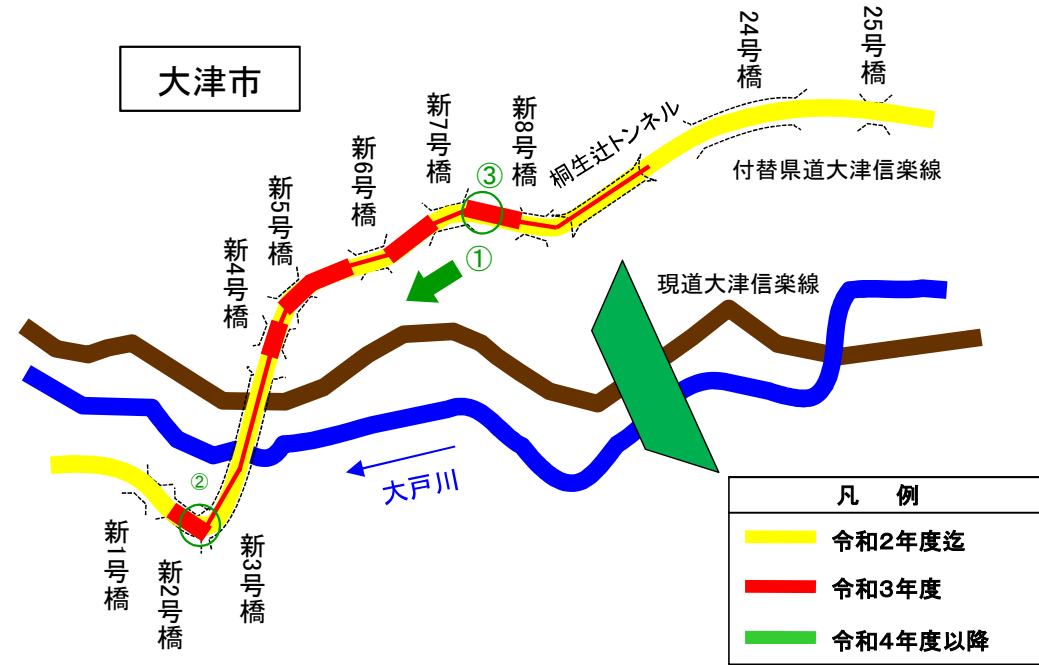


大戸川ダム工事事務所

事業の進捗状況



残工事区間全景(令和3年10月時点)



付替県道大津信楽線進捗状況



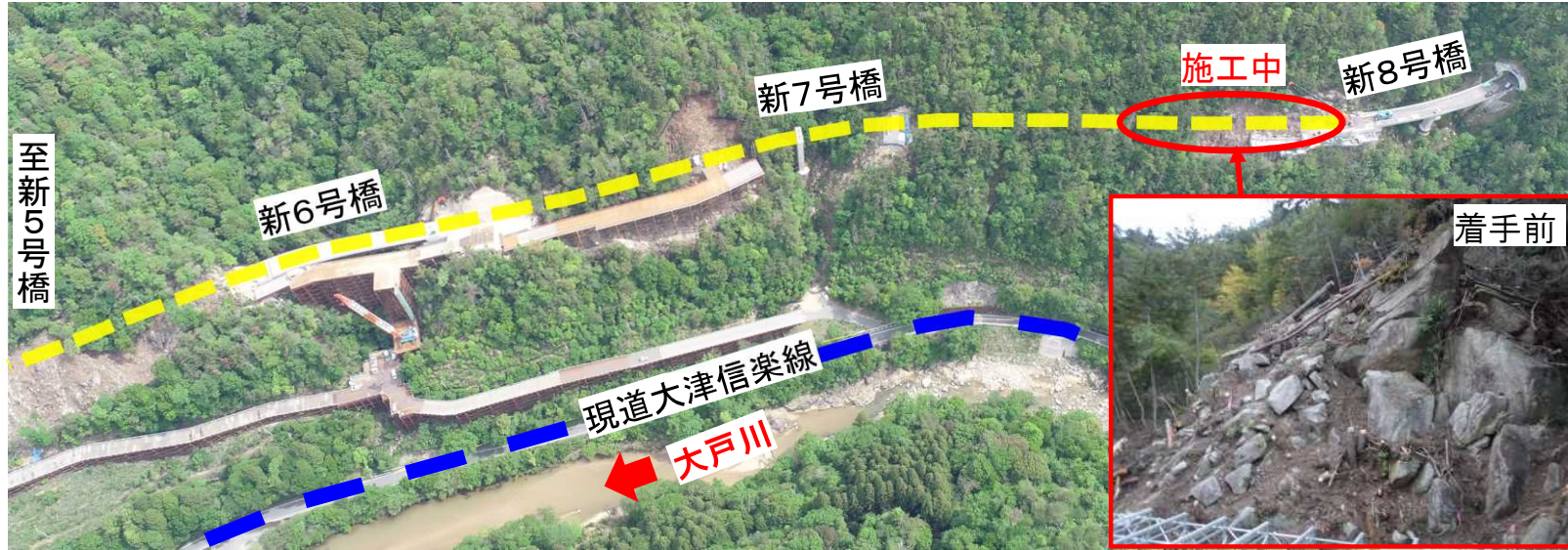
新2号橋上部工事(令和3年10月時点)



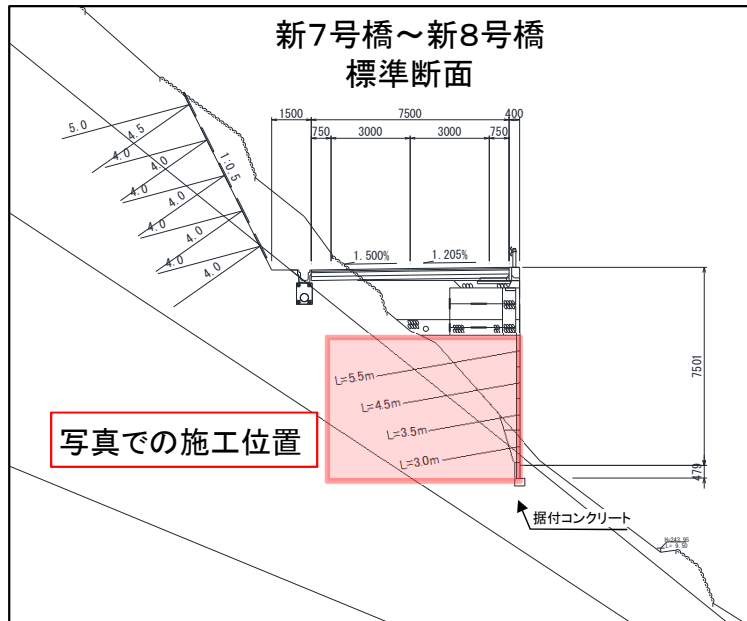
新7,8号橋間道路改良工事(令和3年10月時点)

事業の進捗状況 擁壁施工について①

巨礫撤去による事故リスクの増大、工事価格の増加、工期延期を極力抑制するため、巨礫の撤去が必要となる盛土補強土壁から切土・盛土複合補強土壁へと工法変更を行い工事を実施。



巨礫撤去時の事故リスク及び落石を防止するため、巨礫を存置しつつ補強土壁を施工できる工法を採用。



地山の改変量を最小限に抑え、据付コンクリートを打設し、壁面パネルを設置



壁面パネルの背後にコンクリートを充填し、アンカーで地山と一体化させる

事業の進捗状況 擁壁施工について②

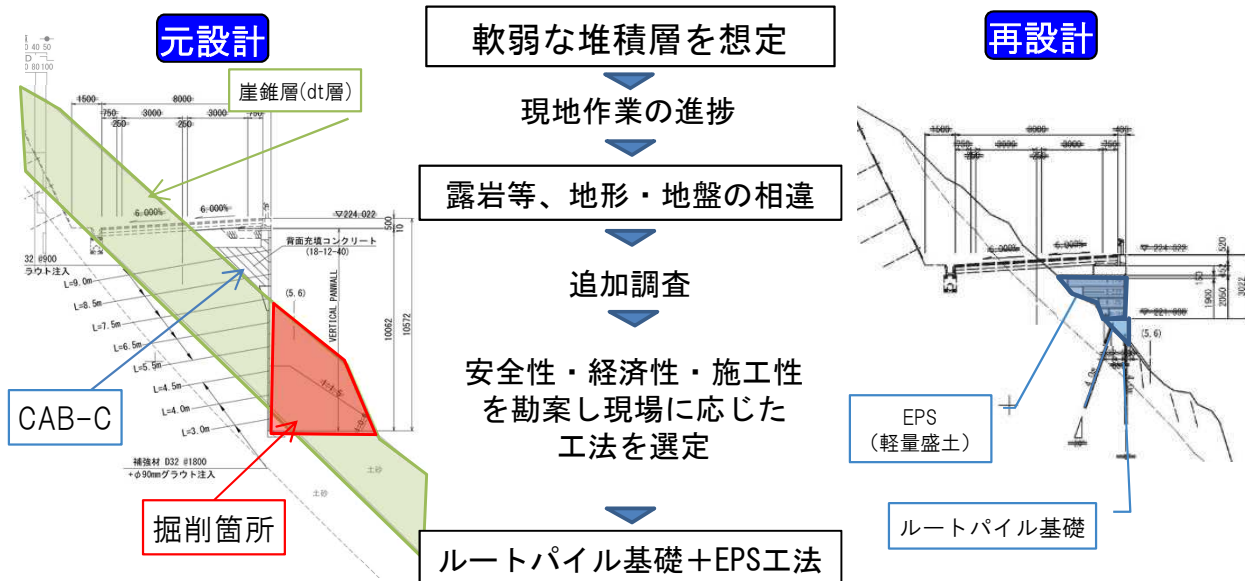
現場状況に応じて最適な工法を選択



新5号橋・新6号橋間
道路改良その他工事
施工状況



地山にそのままコンクリート基礎部分を支える
アンカーを打ち込む→地山改変量を抑制

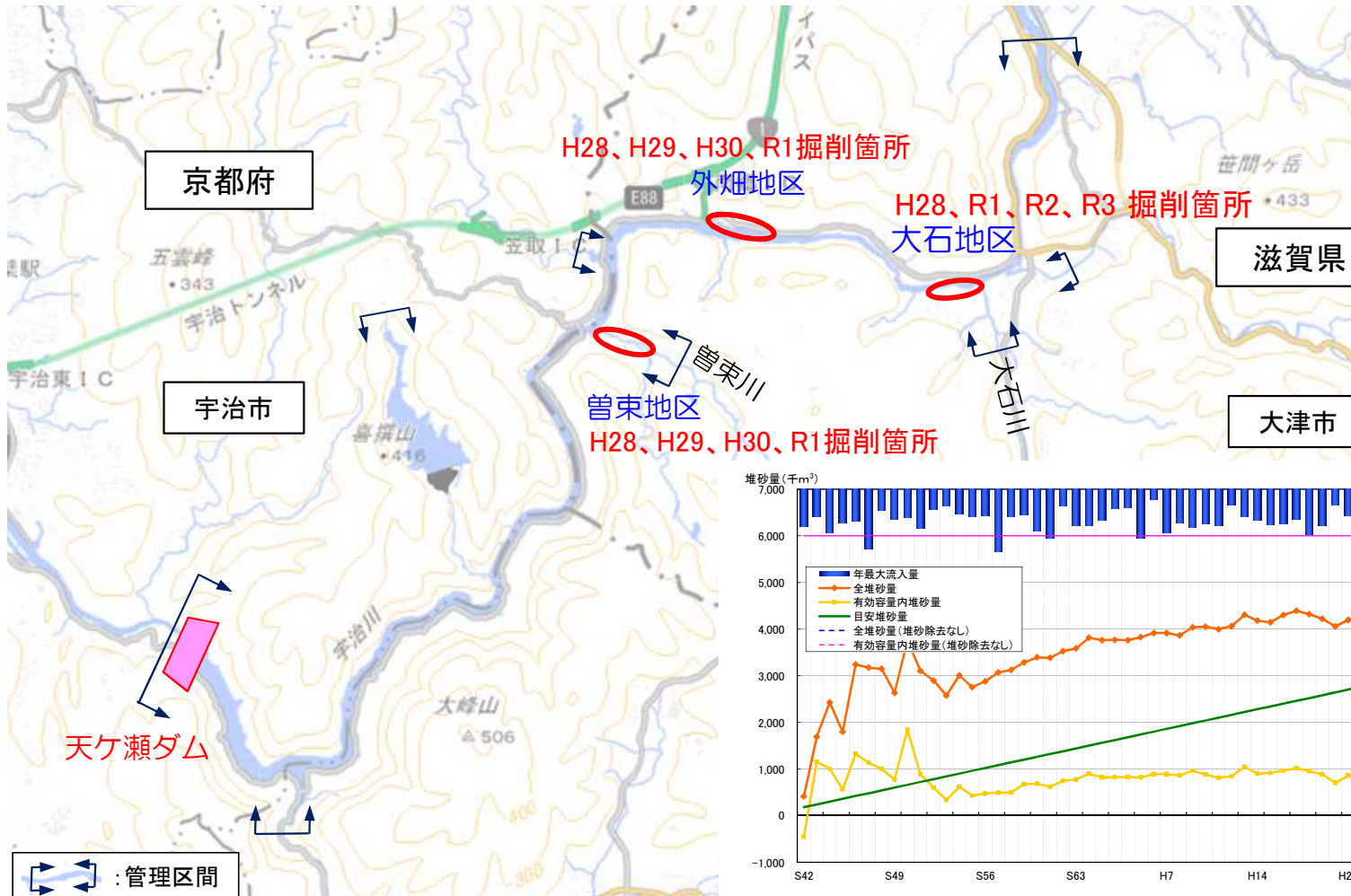


アンカー上部に鉄筋Coを施工し、ルートパイル基礎部分を構築。

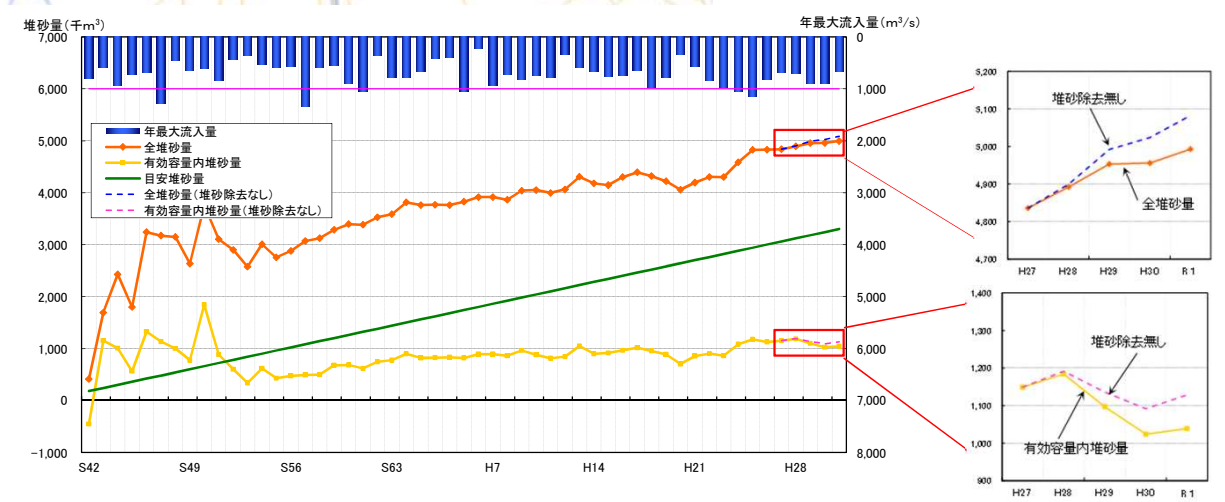
淀川ダム統合管理事務所

天ヶ瀬ダム貯水池の堆砂対策

- ・令和2年時点の全堆砂量は約500万m³であり、計画堆砂量の約83%となっている。
- ・有効容量内（洪水調節容量内）堆積量は約104万m³であり、有効貯水容量（2,000万m³）の約5%に相当している。
- ・平成28年度～令和2年度において、約11万m³の堆砂掘削を実施した。今後も引き続き堆砂対策を継続していく。



掘削状況



天ヶ瀬ダムのダムツーリズム

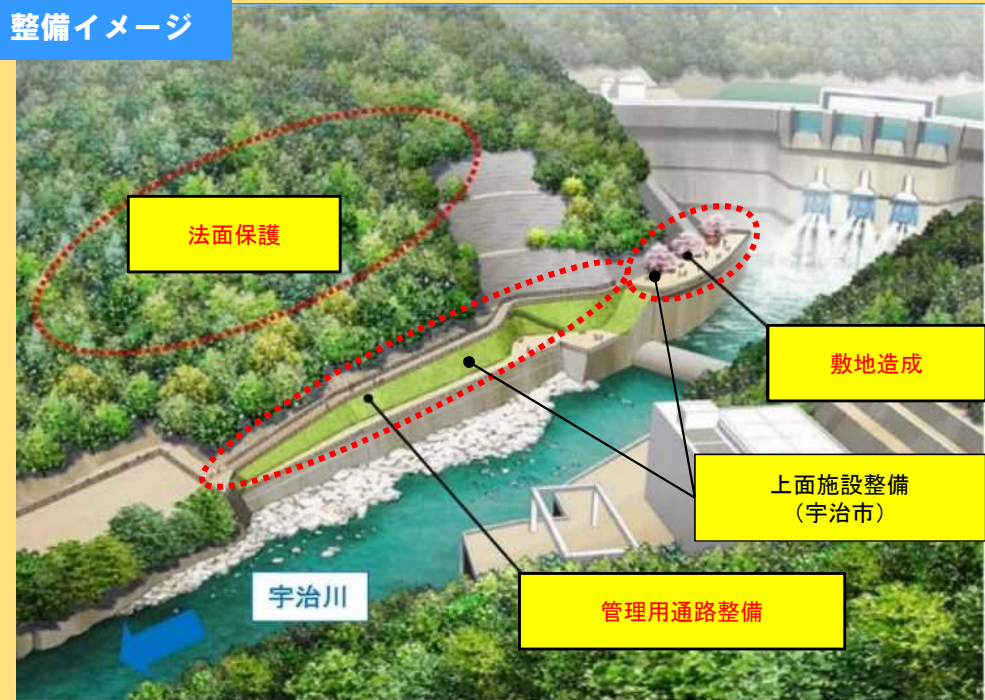
- ・インフラツーリズムの推進として近年、見学ツアーを実施している。
- ・天ヶ瀬ダムを観光資源とし、市街地との周遊性の向上を図るため宇治市と協働し「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」に取り組んでいる。管理施設、安全に利用できる施設の支援として法面保護、管理用通路整備、敷地造成の基盤整備を行っている。

ツアーの様子



宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり

整備イメージ



利用イメージ



- ・ 関係省庁により策定された「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本的な方針」に基づき、関係省庁や利水者とも調整の上で、利水ダムなどの利水のための貯流水をあらかじめ放流し、洪水調節のための容量を確保する「事前放流」など、新たな運用を実施している。

○既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた検討会議 (令和元年11月26日設置)

水害の激甚化等を踏まえ、ダムによる洪水調節機能の早期の強化に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、総合的な検討を行うため、既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議を開催する。

○構成員

議長： 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化等)
議長代理： 内閣官房副長官補(内政)
副議長： 水管理・国土保全局長
構成員： 医薬・生活衛生局長(上水道)
農村振興局長(農業用水道)
経済産業政策局長(工業用水道)
資源エネルギー庁長官(水力発電)
気象庁長官

オブザーバ： 内閣府政策統括官(防災担当)

○事前放流の取組状況

河川管理者である国土交通省(地方整備局等)と利水ダム管理者等との間において、ダムの存在する全ての1級水系(99水系)を対象に、水系毎に事前放流の具体的な開始基準や水位低下量等を定めた治水協定について協議を行い、令和2年5月までに治水協定に合意したところであり、令和2年の出水期から新たな運用を開始する。

○既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針(抜粋) (令和元年12月12日)

先般の台風第19号等を踏まえ、水害の激甚化、治水対策の緊要性、ダム整備の地理的な制約等を勘案し、緊急時において既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、関係省庁の密接な連携の下、速やかに必要な措置を講じることとし、既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本的な方針として、本基本方針を定める。

本基本方針に基づき、全ての既存ダムを対象に検証しつつ、以下の施策について早急に検討を行い、国管理の一級水系(ダムが存する99水系。)について、令和2年の出水期から新たな運用を開始するとともに、都道府県管理の二級水系についても、令和2年度より一級水系の取組を都道府県に展開し、緊要性等に応じて順次実行していくこととする。

(1) 治水協定の締結

(2) 河川管理者とダム管理者との間の情報網の整備

(3) 事前放流等に関するガイドラインの整備と操作規程等への反映

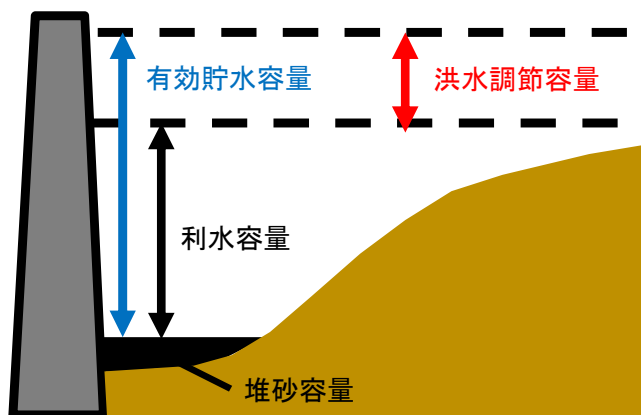
(4) 工程表の作成

(5) 予測精度向上等に向けた技術・システム開発

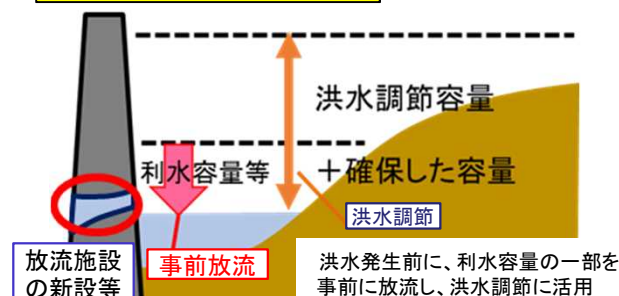
- 水害の激甚化等を踏まえ、ダムによる洪水調節機能の早期の強化に向けて、関係省庁の緊密な連携の下、総合的な検討を行うため、「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議」※を設置（令和元年11月26日）。同会議においてとりまとめられた「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」（令和元年12月12日）に基づき、全ての既存ダムを対象に検証を行い、国管理の一級水系（ダムが存する99水系）について、令和2年の出水期から新たな運用を開始した。

現 状

全国1,470箇所のダムの有効貯水容量(約180億m³)のうち、洪水調節のための貯水容量は約3割(約55億m³)



既存ダムの活用例



- 利水容量の洪水調節への活用
- 緊急時における道府県管理ダムや利水ダムを含めた統合運用・事前放流

※利水者や道府県の協力が必要
※放流施設の新設や改造等が必要な場合あり

既存ダムの洪水調節機能強化の状況

近畿管内の1級水系（10水系）全てにおいて河川管理者、ダム管理者及び関係利水者が令和2年5月29日に治水協定を締結し、令和2年の出水期から新たな運用を開始した。運用開始後も更にダムの洪水調節機能強化を推進することに合意した。

府県が管理する2級水系についても、全20水系で治水協定を締結（R3.4月）しており、令和3年の出水期以降は近畿管内の全ダムで事前放流の運用を開始している。

<参考>

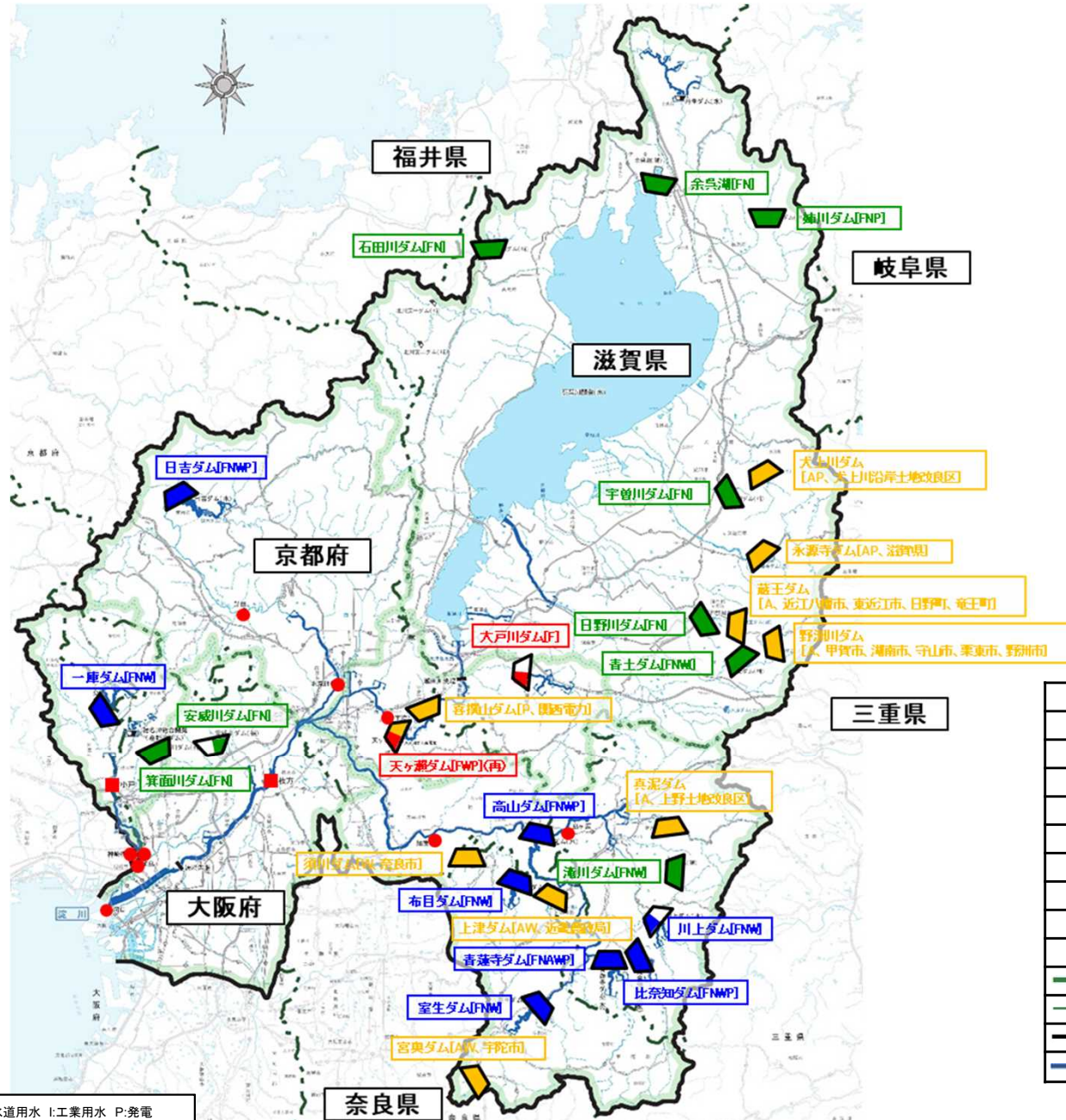
- 1級水系における治水協定 10水系91ダム
- 2級水系における治水協定 20水系38ダム

表 全国のダムの容量内訳

洪水調節容量	利水容量	有効貯水容量
5,509[百万m ³]	12,774[百万m ³]	18,284[百万m ³]

淀川水系における治水協定の対象ダム等位置図

・淀川水系では25ダムについて治水協定を締結済（令和3年12月時点）。



凡例	
	国土交通省所管(直轄建設)ダム[目的]
	国土交通省所管(直轄建設)ダム(再)[目的]
	国土交通省所管(水機構管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(水機構建設)ダム[目的]
	国土交通省所管(道府県管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(道府県建設)ダム[目的]
	利水ダム[目的、管理者]
	基準地点
	主要な地点
	県境
	市町村境
	流域界
	大臣管理区間

F:治水 N:流水の正常な機能の維持 A:農業用水 W:水道用水 I:工業用水 P:発電

水資源機構

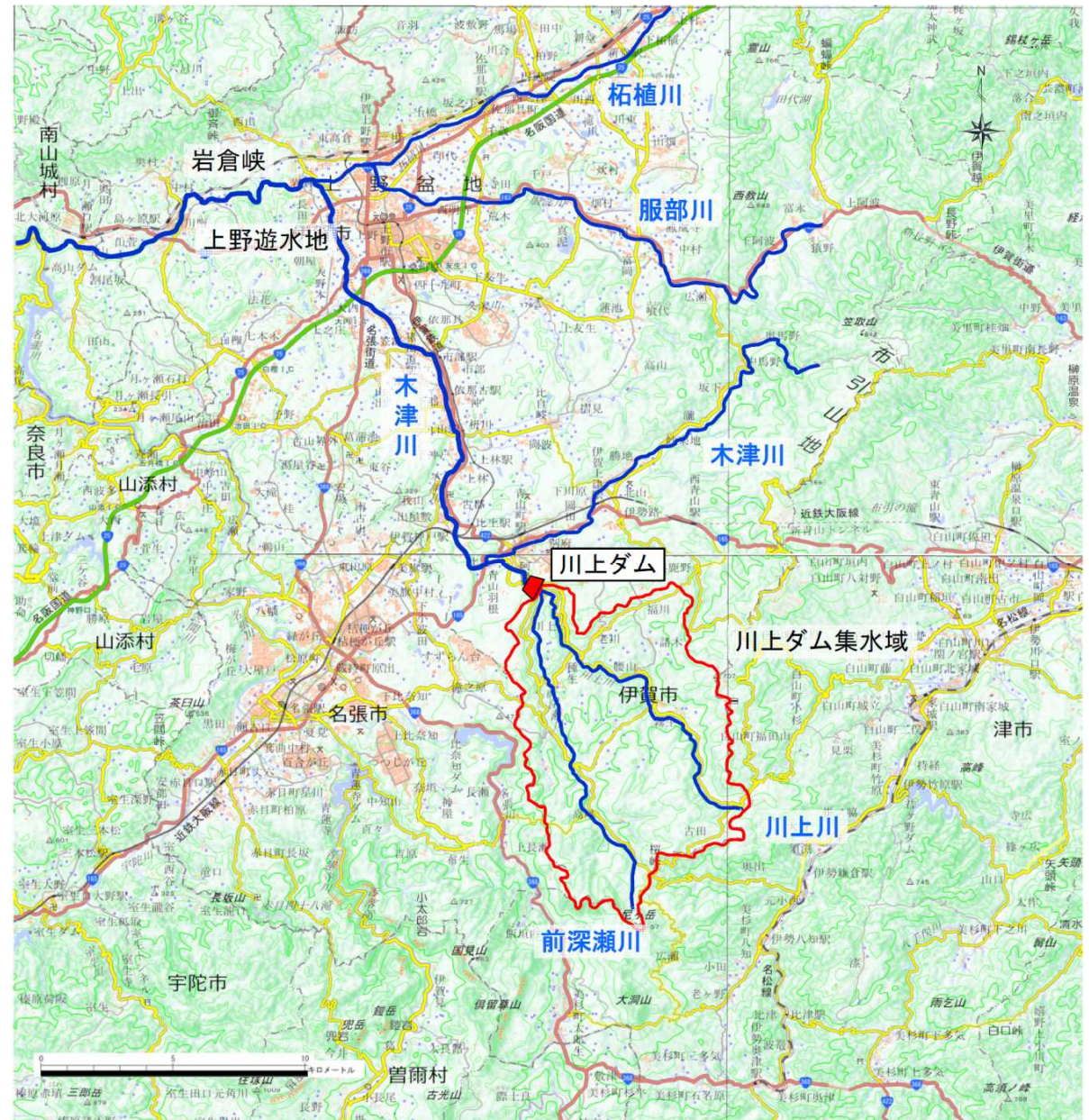
前深瀬川

流域面積：約56.2km²

幹川流路延長：約15.5km

川上ダム

集水面積：約54.7km²



国土地理院発行 1/200,000 地勢図 (名古屋) に加筆

○令和3年4月に本体コンクリート打設完了。令和3年12月16日から試験湛水を開始。



○令和3年4月に本体コンクリート打設完了。令和3年12月16日から試験湛水を開始。



○令和3年10月、川上ダム管理所完成。



【令和3年10月27日】

- 既設ダムの容量を最大限に活用するため、ダム再生の一環として既設ダム等の再編、運用の変更、放流設備の増強及び降雨予測の精度向上等による治水・利水機能向上について、調査・検討した上で実施する。
- 検討にあたってはダムだけではなく、遊水地等の既存施設の有効活用、下流の河川改修や利水容量の活用など流域内の諸施策とともに連携しつつ進める。



高山ダム



一庫ダム

